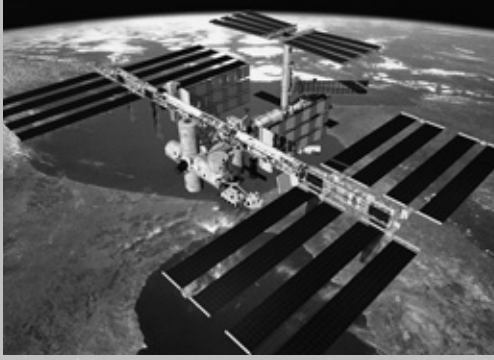


ひょうたん桜の種 宇宙の旅へ

5月28日 全国十三カ所の

桜の種子などを宇宙に打ち上げる計画「花伝説」にひょうたん桜が参加することになり、大崎・名野川両小学校の六年生二十九人が種の採取を行いました。

この夢のある壮大な計画は、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の運用などを手掛ける民間会社「有人宇宙システム」（東京都）が、宇宙を身近に感じてもらうと企画し



桜の種が滞在する国際宇宙ステーションのイメージ図（JAXAホームページより）

たものです。

ひょうたん桜のほか、佐川町のワカキノサクラや沖縄緋寒桜などの種

も一緒に今年十月末にスペースシャトル「エンデバー」で国際宇宙ステーションに向けて打ち上げられます。

桜の種はステーション内に約六カ月間滞在。無重力状態で地球を三千周し、若田光一宇宙飛行士とともに来年四月に地球に戻る予定となっています。

宇宙ステーションで地球を3000周

この日参加した小学生たちは、ひょうたん桜の下で桜地区の住民らと種（黒い実）を集め「有人宇宙システム」の職員に手渡しました。また種と一緒に宇宙に持って行く参加者の写真の撮影や寄せ書きもし



小学生が桜の木の下で種を採取

した。

小学生は「僕たちは宇宙に行くことができないけれど、桜の種が宇宙を見てきます。ここに帰ってきて、どんな花を咲かせるか、とても楽しみです」と話していました。

宇宙から戻った種は、桜地区に植えられる予定です。

焼畑の火入れ 大学生も参加

6月1日 ツボイで「焼畑による山おこしの会」（奥田英雄会長）と愛媛大学のサークル「焼畑の会」の学生ら約五十人が参加して、焼畑の火入れを行いました。

今回の火入れは植林跡地の約十㌥で、参加者は山の神に作業の無事を祈願した後、竹棒を束ねたたいまつで火を付けて回りました。

前日までに降った雨のせいで、地表が湿っていたこともあって、作業は難航しましたが、焼いた後は畑を整備し、トウモロコシ、大豆、

ソバの種をまきました。秋には収穫祭が予定されています。

自然回帰が注目されている現代、山おこしの会では、焼畑の伝統を守っていくため、このような取り組みを今後も続けていきたいとのこと

ソバなど種まき、秋に収穫祭



山の斜面で作業をする参加者

古里を語り、今を語る

第28回近畿仁淀川会総会

5月25日 大阪市内で近畿仁淀川会（岡村重忠会長）の第28回総会が開催され、約九十人の出席者が親睦を深めました。

今回、初めて出席された氏次邦臣さん（北浦）に、会の様子を報告していただきました。

近畿仁淀川会に出席して

氏次 邦臣

今回の出席者は約九十人で、その内、藤崎富士登町長や西森潮三高知県議会議長など仁淀川町と高知市から約二十人が出席しました。

この会が、二十八年間も続行されていることは、歴代の役員の皆さん、現在の岡村会長をはじめ、役員ご一同の熱心なお世話があればこそと、感心と敬服の念です。

会では、藤崎町長や西森県議会議長、岡村会長のごあいさつのほか、「秋葉まつりの里を元気にする会 えんこ巖」の中越伊勢夫様から秋葉のPRもありま

した。

アトラクションでは、地元大阪の「かわち連」の踊りやカラオケ、土佐の箸拳（はしけん）、ビンゴゲームなどいろいろな催しがありました。ビンゴゲームの賞品には、役員の皆さまの手作りのお土産もあり、ご苦労なことを感じさせられました。

来年も五月最後の日曜にこの会を計画されるようで、今から段取りをされているとのこと。

本紙をご覧の皆さんも、近畿地方で暮らす町出身者、友人、知人、親族の方に会のPRをしてください。

町は、過疎と高齢化が進



んでいますが、地元の古き行事、伝統を守っていききたいものです。過疎になっても、人々の心までが過疎にはならぬよう、日々にロマンを求めて生きていくことが大切だと思います。

来年の会も大勢の方のご出席により、古里の昔を語り、そして今を語り合いましょう。

超かんたん有機農業勉強会

5月15日 高知439国道有機協議会の主催による有機野菜勉強会が池川地区で行われました。

この勉強会は、土佐町の「有機のがっこう」塾長・山下一穂氏を講師に招き「超かんたん無農薬有機農業」を実践と理論で学ぼうという取り組みで、土づくりから収穫までの5回を予定しており、毎回ほ場作業と講演をセットにしています。

第1回目は、午後4時から狩山のほ場で簡単な作業説明とソルゴー（緑肥）の種まきをした後、会場を池川コミュニティーセンターに移し、有機農業の必要性、温暖化防止効果など地球規模での興味深い内容について約2時間の講演を行いました。

当日は、あいにくの曇り空でしたが、ほ場作業

には25人が参加し、熱心に説明を聞いていました。

今回の勉強会は、7月中旬を予定しています。

参加希望等の問い合わせは、池川総合支所地域振興課（☎34・2115）まで。



実証ほ場で山下氏から説明を受ける参加者

会員2名が永年会員表彰を受賞 食生活改善推進協議会



表彰を受けた氏次さん(左)と鎌倉さん

5月28日、高知市で行われた第31回高知県食生活改善推進協議会総会において、仁淀川町池川支部会員氏次百合子さん(北浦)と鎌倉澄子さん(折尾)が、永年会員(20年以上)の表彰を受けました。

同会は、小中学校の児童生徒を対象とした料理教室や男性のための料理教室など「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに健康づくりのための生活習慣を実践し、普及活動を行っています。

お二人とも平成元年の同会発足(旧池川町食生活改善推進協議会)から食生活改善推進員(愛称・ヘルスメイト)として活動されています。

中央地区大会へ川渡と森分団出場 町消防団仁淀地区大会

6月8日、町消防団仁淀地区大会が、藤原芳男団長以下96人の団員と消防関係者が参加して開催され、服装および機械器具の点検や小型ポンプ・ポンプ車操法の競技などが行われました。

気合いの入った掛け声と、きびきびした動作で競技に取り組む各分団員は、日ごろの訓練の成果を十二分に発揮していました。

各競技第1位の分団は、10月19日(日)に県消防学校で行われる中央地区消防操法大会に出場します。

各競技の成績は次の通りです。

小型ポンプ操法

- 第1位…川渡分団
- 第2位…森分団
- 第3位…泉川分団

ポンプ車操法

- 第1位…森分団
- 第2位…長者分団



ポンプ車操法

ご寄付のお礼

◇一般寄付金

宇都宮俊裕様(高知市)
小野 彰様(広島市)
西森 博様(高知市)

ご寄付をいただきました。
ご芳志をありがとうございます、
町行政に有意義に活用させていただきます。

◇広報寄付金

宇都宮俊裕様(高知市)
岡崎 憲二様(京都市)
岡崎 泰子様(高知市)
岡村 重忠様(栗東市)
小野 尚子様(高知市)
片岡 義友様(東久留米市)
鈴木 正孝様(一宮市)
竹本 虎貢様(松原市)
谷脇 岩祐様(高知市)

西 佐与子様(越知町)
西森 準典様(高槻市)

馬場 安子様(柏原市)
山中 武道様(いの町)

ご寄付をいただきました。

ご芳志をありがとうございます、
広報発行に役立たせていただきます。

◇楽しい遊び場ができました

四月初め、上岡工務店様から
ふたば保育所へ、海砂のご寄付

がありました。

園児たちは目をキラキラ輝かせながら、貝探しや泥んこ遊びに夢中で、砂場は大事な遊び場になっています。



楽しいな！砂場は園児の大事な遊び場に

以上、各種ご寄付をありがとうございます、
うございました。

仁淀川町役場

◇社会福祉協議会

仲村 澄夫様(見ノ越)
藤原 晟様(名野川)

ご寄付をいただきました。

ご芳志をありがとうございます、
社会福祉事業に役立たせていただきます。ありがとうございます。

仁淀川町社会福祉協議会



西森武廣さん

集落に住む西森武廣さんは「形部」という所は、昔、刑部けいぶと*いわれていたように、やぶばかりで、仁淀地区の中でも開けるのが遅かった。昔は炭焼きやミツマタを作って生活していたが、今は現金収入になるものがない。若い者も減ってきた。昔は、盛大に七夕祭*

りをしたりしたが、今は何もない」と、少し寂しそうに話していました。
「螢ヶ淵」と「灰屋床」
国道439号に架かる形部橋のたもとに三所神社があります。また橋の下には、昔ホタルが乱舞していたことから「螢ヶ淵」と呼ばれるようになった淵（ふち）があります。
西森さんも「それは大きくて、無数のホタルがおった。懐中電灯で辺りを照らすように光っていた」と、懐かしそうに思い出してい

ました。現在ではホタルをあまり見掛けなくなったとのこと。
螢ヶ淵の下流には、「灰はい屋床やとこ」という地名がありま



三所神社

す。
ここでは、一八〇〇年代に石灰を製造していたといわれています。昔の石灰は牡蠣殻かきを焼いて製造したもので、肥料として稲作に使用していたとのこと。
六地藏
昔、交通の便がない時代には、伐採した木を運ぶために長者川を利用していました。大水が出た後に、木を佐川方面まで流すのです。ある日、その作業をしていた六人が、誤って川に転落、命を落としてしま



六地藏。岩屋の中に6体の地藏が祭られています。

ました。その仏を祭ったのが六地藏です。国道ぶちにあり、バス停の名称にもなっています。

集落見聞録

(第29回)

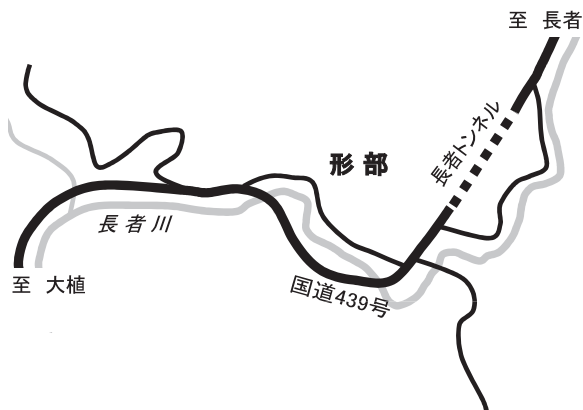
ぎょうぶ 形部

形部は、5月末現在20世帯、49人の集落です。仁淀総合支所から車で約10分、長者川に沿って人家が立ち並んでいます。

地名の起こりについては、仁淀村史に次のように書かれています。「『長曾我部地検帳』に『刑部居』とあり、刑部という人がその当時村の取り締まりに任じられ、罪人を庄屋に引き渡し、笞罪(ちざい)(むち打ちを刑罰として科す)執行のとき、むち打ちの役を務めた。このことから、刑部または刑部けいぶといふ地名になったと思われる。大正6年ごろ刑部けいぶを形部と改めた」



国道439号から見た形部集落



緩やかな長者川に沿って開かれた集落